

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 11 月 10 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4076100108		
法人名	有限会社 グループホームほほえみ		
事業所名	グループホームほほえみ I		
所在地	福岡県飯塚市大分1442-9 〒820-0712 (電話) 0948-72-3734		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成20年11月10日	評定確定日	平成20年12月25日

## 【情報提供票より】(平成 20 年 10 月 10 日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15 年 7 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 4 人	非常勤 5 人 常勤換算 4.2 人

## (2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての～		1 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無 (一時金を含む)	有( 円)	有の場合 償却の有無	有 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	または1日あたり 円程度		

## (4) 利用者の概要 ( 10月 10日現在 )

登録人数	8 名	男性	0 名	女性	8 名
要介護 1	3 名	要介護 2	1 名		
要介護 3	3 名	要介護 4	1 名		
要介護 5	0 名				
要支援 1	名		要支援 2	名	
年齢	平均 84 歳	最低	73 歳	最高	96 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	永芳医院
---------	------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人代表者を中心に「利用者の生活の質の向上」を図るため「一人ひとりの尊厳を大切にす」という理念のもとに、利用者が地域のなかで安定した生活を維持していける、よりよいかかわり方を日々研鑽し実践しているホームである。閑静な住宅地の中に位置し、全職員の温かさに包まれて穏やかなその人らしい安らぎの日々があり、利用者の表情の豊かさに安定したゆとりのある生活の営を見ることが出来る。ホーム内外の環境も家庭的雰囲気を感じ、利用者が落ち着いて生活できる配慮がある。また、法人代表者、管理者をはじめ職員は、熱意を持って認知症ケアを行っており、日々の介護のなかに、利用者一人ひとりを尊重した穏やかで、さりげない支援が徹底されている。日々の散歩や買い物、地域行事への参加などを通じて、地域に受け入れられ支えられ、地域との交流も図られており今後の発展が大いに期待される事業所である。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果について、家族会や運営推進会議時に報告を行い、職員へはミーティング時に改善についての協議を行うなど、質の向上への取組みがある。この過程で書類の整備を行うなどの成果が見られる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の外部評価受審にあたり、外部評価項目の内容を全職員で確認を行うなどの取組みがある。また、自己評価内容や外部評価内容項目を確認することで、日常業務の見直しや職員への気づきを生み出す結果につながっている。
重点項目	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	自治会長、民生委員、行政の担当職員、地域包括支援センター職員、市の介護相談員、地域住民、本人・家族などの参加のもとに3ヶ月毎の運営推進会議が開催されている。運営推進会議時に、ホームの活動状況についての報告や外部評価の結果について地域参加者や介護相談員、利用者から積極的に意見がでるなど、運営推進会議を活かした取組みがある。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	家族の面会時の声かけや運営推進会議、家族会などを通じて、利用者の日常の様子や外出、行事参加状況などを報告している。また、家族の面会時に職員が行事等の写真を提示して、利用者の健康状態や暮らしぶりなどを伝えている。家族の面会時や家族会などを利用して、家族の意見や思いの表出に努めたり、相談・苦情についての意見箱を設置するなど、意見や要望を言い出しやすい雰囲気づくりへの取組みがある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、町内の清掃や廃品回収などへの協力参加、町内の敬老会への参加、散歩時の声かけなど、地域の人々との交流が図られている。また、ホーム行事や懇親会などへの参加、ホームの紹介などを町内の回覧板や地域の方への案内状の配布を通じて行い、常に地域とのかかわりを意識した日々のケアに取り組んでいる。

## 2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	開設当初からのホームの理念・目標に「入所者の生 活の質の向上」と「一人ひとりの尊厳を大切にす る」ことを掲げ、地域密着型サービスとなったことを受けて 再検討し地域の方の協力を織り込み、地域との関係 づくりが重視されたものとなっている。また、一日でも 長く地域で安定した生活が維持できるよう理念に基づ いた支援に取り組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内への理念の掲示や毎月のミーティング時の 法人代表者による、理念の内容についての具体的な 提示など、全職員で常に理念を確認しあう取組みが ある。また、その人らしい生活ができるよう理念に基 づいた支援の内容について、法人代表者をはじめ管 理者、職員間で協議するなど、質の向上に向けて取り 組んでいる。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流すること に努めている	町内会に加入し、町内の清掃や廃品回収などへの 協力参加、町内の敬老会への参加、散歩時の声かけ など、地域の人々との交流が図られている。また、 ホーム行事や懇親会などへの参加、ホームの紹介な どを町内の回覧板や地域の方への案内状の配布を 通じて行い、常に地域とのかかわりを意識した日々 のケアに取り組んでいる。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	前回の評価結果について、家族会や運営推進会議 時に報告を行い、職員へは全体会議時に改善につ いての協議を行うなど、質の向上への取組みがある。こ の過程で書類の整備を行うなどの成果が見られる。 今回の受審にあたり、全職員で評価項目の内容を確認 し、評価の内容を日々のケアに活かし、質の向上 に向けてのレベルアップを図るなどの取組みがある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、民生委員、行政の担当職員、地域包括支援センター職員、市の介護相談員、利用者・家族などの参加のもとに3ヶ月毎の運営推進会議が開催されている。運営推進会議時に、ホームの活動状況についての報告や外部評価の結果について市の介護相談員や利用者・家族などから積極的に意見がでるなど、運営推進会議を活かした取り組みがある。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に行政の担当職員や地域包括支援センター職員、介護相談員の参加がみられる。運営推進会議を通じた連携や疑問な点、運営上などの改善点についてその都度相談するなど、利用者の生活の質の向上に向けて行政とともに取り組んでいる。また、行政主催の研修会や連絡協議会には積極的に参加し、連携を図っている。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修等に参加し、ミーティング時に受講報告会を行い、職員全体で理解を深めている。また、契約時、成年後見人制度や日常生活自立支援事業(地域福祉権利擁護事業)の概要や利用手順についての説明を行い、相談や必要時には機関への紹介を行うなど、活用に向けての支援を行なっている。		
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時の声かけや運営推進会議、家族会などを通じて、利用者の日常の様子や外出、行事参加状況などを報告している。また、面会時職員が、行事等の写真を提示して、利用者の健康状態や暮らしぶりや外出、行事参加の様子などを伝えている。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会時の働きかけ、家族の面会時などを利用して、家族の意見や思いの表出に努めている。また、相談・苦情についての意見箱を設置するなど、意見や要望を言い出しやすい雰囲気づくりへの取り組みがある。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者が個人面談を行い、職員一人ひとりの意見や希望を聞きながら改善に努める等の取り組みがある。新しい職員が入職した際は、1ヶ月程度は日中のみの勤務とし、1年間程は利用者とのコミュニケーションを主にとってもらい、少しずつかわりを持たせるなかで管理者が見守り、指導にあたるなどの支援体制がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用に関して、年齢や性別等による制限はなく、人柄を重視しての採用である。理髪店の経験がある職員に利用者の理髪を行ってもらったり、手先の器用な職員が手工芸品を作るなど、職員一人ひとりの能力や経験を活かし、やりがいを持って勤務していけるように支援している。また、外部研修参加や資格取得を目指す職員に対しては、勤務の調整を行うなどの支援体制がある。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	行政で行われる人権研修への職員参加や、事業所内での受講報告会や勉強会、啓発活動など、職員の人権意識を喚起する取り組みがある。		
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の希望や管理者の研修内容と輪番制等を考慮した適切な割り振りにより、職員が積極的に外部研修に参加できる機会を確保している。毎月のミーティングにて受講報告会を行ない、知識の共有に努めるなどの取り組みがある。		
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者による事業者協議会やグループホーム協議会の研修や交流への参加、他のグループホームへの見学、交流を通じての情報交換などサービスの質の向上に向けた取り組みがある		他グループホームとの職員同士の交流等により、職員の新たな発見や気づきを生む機会を確保し、更なるサービスの質の向上に向けた取り組みを期待します。



外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前のホーム見学や体験入居など、安心して入居後の生活に馴染めるように柔軟に対応する取り組みがある。入居直後は、家族との連絡、報告を密にし、利用者へは頻繁な声かけを行い、かかわりを多く持つなど、利用者の不安を軽減し徐々に馴染めるような支援を行っている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ことわざを教えてもらったり、郷土料理、裁縫、着付けなど、人生の先輩として、日常のかかわりを通して自然と学び支えあう関係づくりへの取り組みがある。また、職員やホーム全体の様子をみながら適切に手助けをしてくださる利用者もあり、共に支えあいながら暮していこうとする関係が伺えた。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との日々のかかわりの中から、利用者一人ひとりの希望や意向の把握に努め、家族の面会時や家族会などを通じ、家族の意向などの把握に努めている。また、介護記録やミーティングなどを通じて情報を共有し、職員全員で話し合いながら、利用者・家族の意向や希望を確認し、介護計画に反映させるなどの取り組みがある。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用者との日々のかかわりを通して、利用者の希望の把握に努め、家族の面会時の声かけなど通して、家族の思いや意向の把握に努めている。介護支援専門員が介護計画書を作成し、月1度のミーティング時に職員全員の気づきや意見等を協議し、介護計画書へ反映させるなどの取り組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要な 関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している	毎月のミーティング時や日々の申し送り時に本人の 状況や様子、支援の方針等の情報交換や共有を職 員全員で確認している。また、6ヶ月毎及び状態変化 の際は、利用者、家族の意向や希望の確認を行い、 介護計画書の見直しや再作成を行うなどの取組みが ある。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に 応じて、事業所の多機能性を活かした柔 軟な支援をしている	協力医療機関による週1回の往診、家族が受診介 助できない場合のかかりつけ医や歯科医院等への受 診介助を行うなど、利用者の状況や家族の要望に応 じて、柔軟に対応している。また、入院時は、家族に 代わって着替えを届けたり、見舞いを行うなどの支援 を行っている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けられ るように支援している	契約時にかかりつけ医の希望があるかどうか把握 している。希望がある場合は、原則、家族が受診の付 き添いを行うが、家族が対応できない場合はホーム で支援を行うなどの取組みがある。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	契約時、重度化や終末期におけるホームの方針に ついて説明し、同意を得ている。日常の何気ない会話 を通じて本人の気持ちを聞くなど、利用者・家族の意 向や希望を把握・記録し、本人・家族の希望に沿った 支援がある。また、状況の変化に伴い、その都度家 族、主治医、事業所を交えて協議し、方針を共有して いく取組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	「一人ひとりの尊厳を大切に」という理念を法人 代表者が毎月のミーティングにて具体的に説明し、適 宜指導するなど、全職員が日常のかかわりの中で常 に尊厳を持った支援を心がけている。タイミングを見 計らってのさりげない声かけ、丁寧な呼称、視線を合 わせて笑顔で傾聴するなど、利用者の誇りやプライバ シーに配慮した対応が見られた。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	ホームとしての大まかな一日のスケジュールはある ものの、そのときどきの気持ちを尊重し、決して無理 強いせず、様子を見ながら、声かけを行っている。ま た、利用者一人ひとりの生活リズムに配慮して、食事 を取る場所、食事にかかる時間、居室で過ごすタイ ミングなど、利用者のペースや気持ちを尊重した対応 が見受けられた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	栄養バランスや利用者の好みなどを取り入れたメ ニューをもとに、ホームで調理している。米飯のつぎ わけや配膳、引き膳、食後の後片付けなど、利用者 一人ひとりができる範囲で協力しながら行うなどの取 組みがある。食事を作る際の匂いや音により五感へ 働きかけ、利用者と職員が一緒に行うなど、食事が楽 しみとなるような工夫が見られる。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイ ミングに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	午後から夕方近くまでの時間帯で、一日おきの入浴 であるが、毎日の入浴も可能であり利用者の希望や 状況に応じて柔軟に対応している。入浴にかかる時 間や順番、回数など、本人の希望に沿ったケアが実 施されている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	日々の会話の中から、利用者の興味や関心がある ことなどを聞きながら、利用者に応じた役割や楽しみ ごとなどへの支援をしている。庭の草取りや本の読み 聞かせ、米飯のつぎわけなど、利用者一人ひとりの 持っている能力を生かすような取組みがある。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	花見や芋掘り、落語観劇、一泊旅行、外食など、定 期的な外出に加えて日常生活での散歩や買い物、町 内の敬老会への参加など、積極的に外出への支援を 行っている。また、個別の希望に沿って、少人数での 買い物など、利用者の状況に応じて柔軟に支援して いる。		
(4) その人らしい暮らしを続けるための生活環境の支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	日中は常に開錠されている。きめ細かな観察により 外出傾向のパターンを把握し、さりげなく声をかけたり、 利用者と一緒に出かけるなど、利用者の自由と安全に 配慮しながら適切に支援している。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身につ け、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	年1回消防署の指導による避難訓練を通じて、避難 誘導方法等を学ぶ取組みがある。また、地元消防団 や敬老会を通じて、地域の協力体制が得られるなど の取組みがある。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日 を通じて確保できるよう、一人ひとりの 状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	カロリーや栄養バランスを考慮した食事の提供に取り組 んでいる。また、利用者ごとの食事摂取量を毎回把握 し栄養面への配慮がみられる。必要な利用者につい ては水分摂取量のチェックを行うなど、水分確保への 支援がある。		



外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	玄関の入り口やリビングに季節感を意識的に取り入 れた装飾が行われている。また、廊下には入居者が 外出した際のスナップ写真が飾られるなど、あたたか く家庭的で居心地良く過ごせるように工夫されてい る。リビングにはソファや畳スペースもあり、利用者 同士でゆっくりとくつろいで過ごせるように配慮されて いる。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	居室はクローゼットが備え付けられており、寝具や 家具、シルバーカー（押し車）、写真、調度品など、利 用者にとって馴染みの物が持ち込まれており、居心 地良く過ごすための居室づくりへの工夫や配慮が見 られた。		

は、重点項目。  
(数字)は、国の標準例による番号